

2024 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

| | |
|-------|--|
| 氏名 | 清田 政秋 |
| 研究テーマ | 〈物のあはれ〉論から道の論への展開過程に現れる本居宣長の上代観・学問観 |
| 研究概要 | 本居宣長は〈物のあはれ〉を知る心の源流を求めて、平安朝の歌・物語研究から上代人の有り様・心ばえを記す『古事記』研究へと向かった。その過程で宣長の上代観は徐々に形成され、我国の学問は上代のありさまを明らかにすることであるとする学問観を持つに至った。本研究は『古事記伝』に至る前段階の宣長の上代観と学問観を把握する。 |

| | |
|-----------------|--|
| 1. 研究活動の概要と研究成果 | <p>本居宣長の学問において〈物のあはれ〉論と道の論は、別々のものか相互に繋がるかものは大きな問題であり、それについて先行研究の中で様々な見解がある。2024 年度はその問題に取り組み、先行研究とは全く異なる視点からそれを追求した。その視点とはその問題を仏教哲学との関連性から考察することである。二つの課題を設定した。一つは〈物のあはれ〉論には仏教の哲学的思考がその基礎にあり、その思考は『古事記伝』の道の論に引き継がれ、宣長の学問に一貫するものであったことを論証すること、二つ目は〈物のあはれ〉論から道の論への展開過程に現れる上代観と学問観を明らかにすることである。しかし宣長と仏教哲学との関連性を実証的且つ説得的に論証し、纏め上げるには至らなかった。宣長が自らの学問と仏教哲学との関連性について直接的には語っておらず、それを状況証拠の積み上げによって立証することが困難であったことによる。宣長と仏教哲学という従来にないテーマを分り易く、且つ説得的に論じられるよう更なる研鑽を積みたい。</p> |
| 2. 学術論文・学会発表等 | <p>〔発表〕</p> <p>研究発表: 単「本居宣長の漢意・知識人批判と学問観—法然の凡夫の思想との関連性」 佛教大学大学院中間発表会（仏教文化部会）（2024 年 7 月 13 日）</p> |
| 3. 今後の課題 | <p>宣長において〈物のあはれ〉論の展開が『紫文要領』と『石上私淑言』に限定されるのに対し、漢意批判は『古事記伝』のみでなく晩年までの諸著作で繰り返し述べられる。〈物のあはれ〉論と漢意批判についてはこれまで膨大な研究が積み重ねられて来た中で、両者はどう関連するのか、またなぜ宣長は生涯に亘って漢意・儒教をあれほどまでに攻撃しなければならなかったのかという問題はまだ明確になっていない。2025 年度は、前年度の研究を踏まえ、宣長における仏教の哲学的思考という視点から〈物のあはれ〉論と漢意批判との関連性を追求する。それに当って宣長が晩年まで語り続けた漢意批判を、従来研究の枠内に留まらずに、人間の知識の源泉は何か、確実な知識とはいかなるものか、言葉の使い方を含めて人間の思考の有り様はいかなるものか等に関する宣長の思想の問題として検討する。それによって宣長にとって漢意批判とはどのような意味合いのものであったかを明らかにする。</p> |